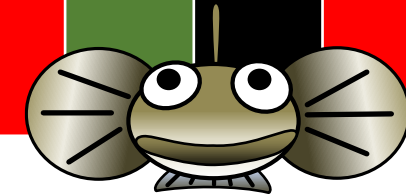


第2回



江戸前勉強会2022

- はじめに

「第1回の振り返りと、参加の皆様について」

(古川恵太)

- **話題提供**

「東京湾の環境のモニタリングの体制について」

(古川恵太)

「(仮題)フランクトンから見た東京湾の環境」

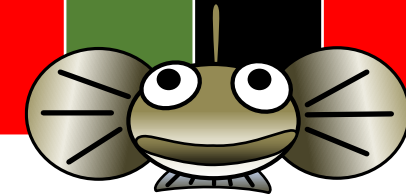
(片野俊也さん、東京海洋大)

- 意見交換

- おわりに

片野さんにスライドのご提供をお願いしております。入手次第、資料を掲載いたします。

第2回

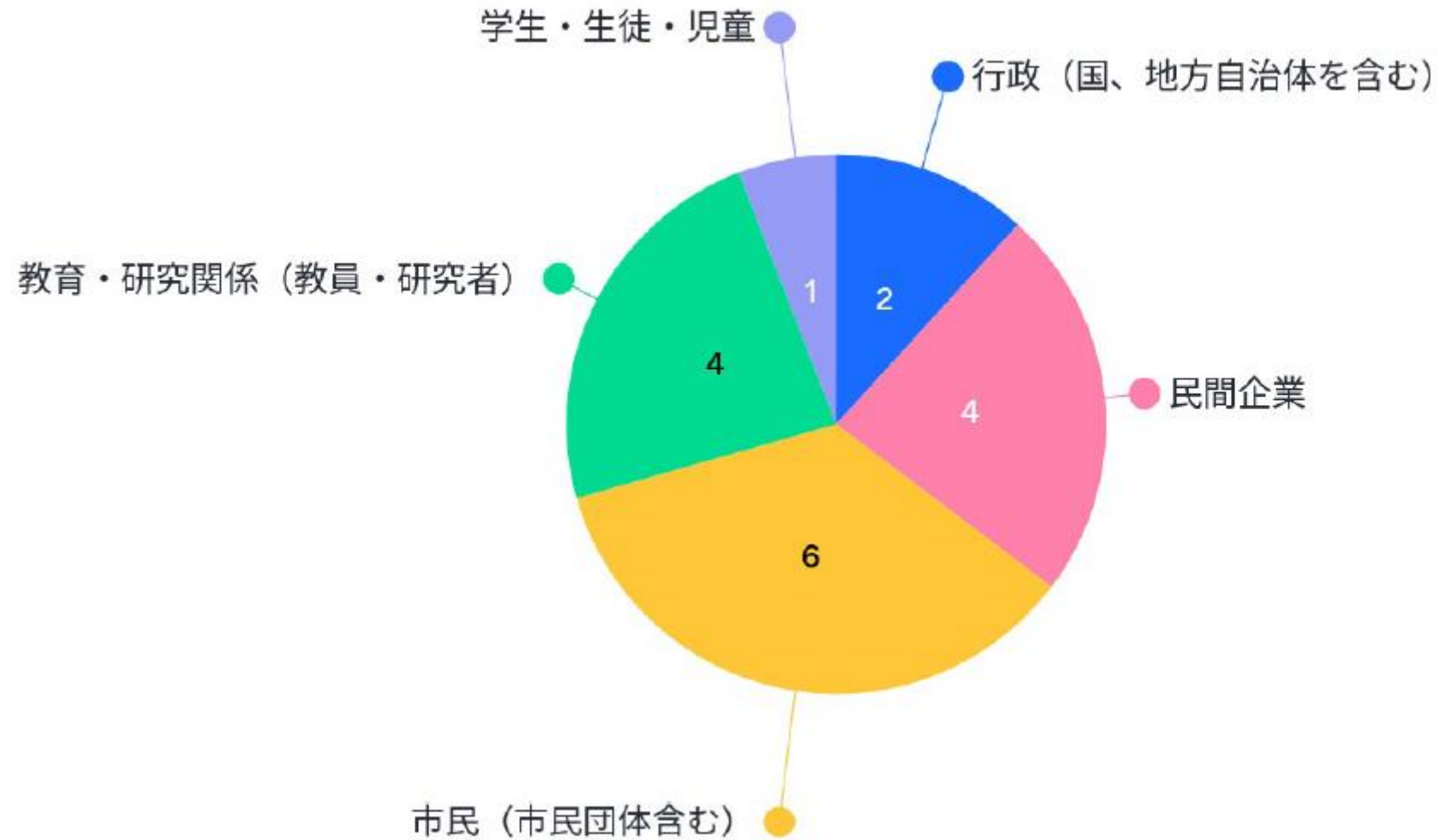


江戸前勉強会2022

- はじめに
「第1回の振り返りと、参加の皆様について」
(古川恵太)
- 話題提供
「東京湾の環境のモニタリングの体制について」
(古川恵太)
「(仮題)フランクトンから見た東京湾の環境」
(片野俊也さん、東京海洋大)
- 意見交換
- おわりに

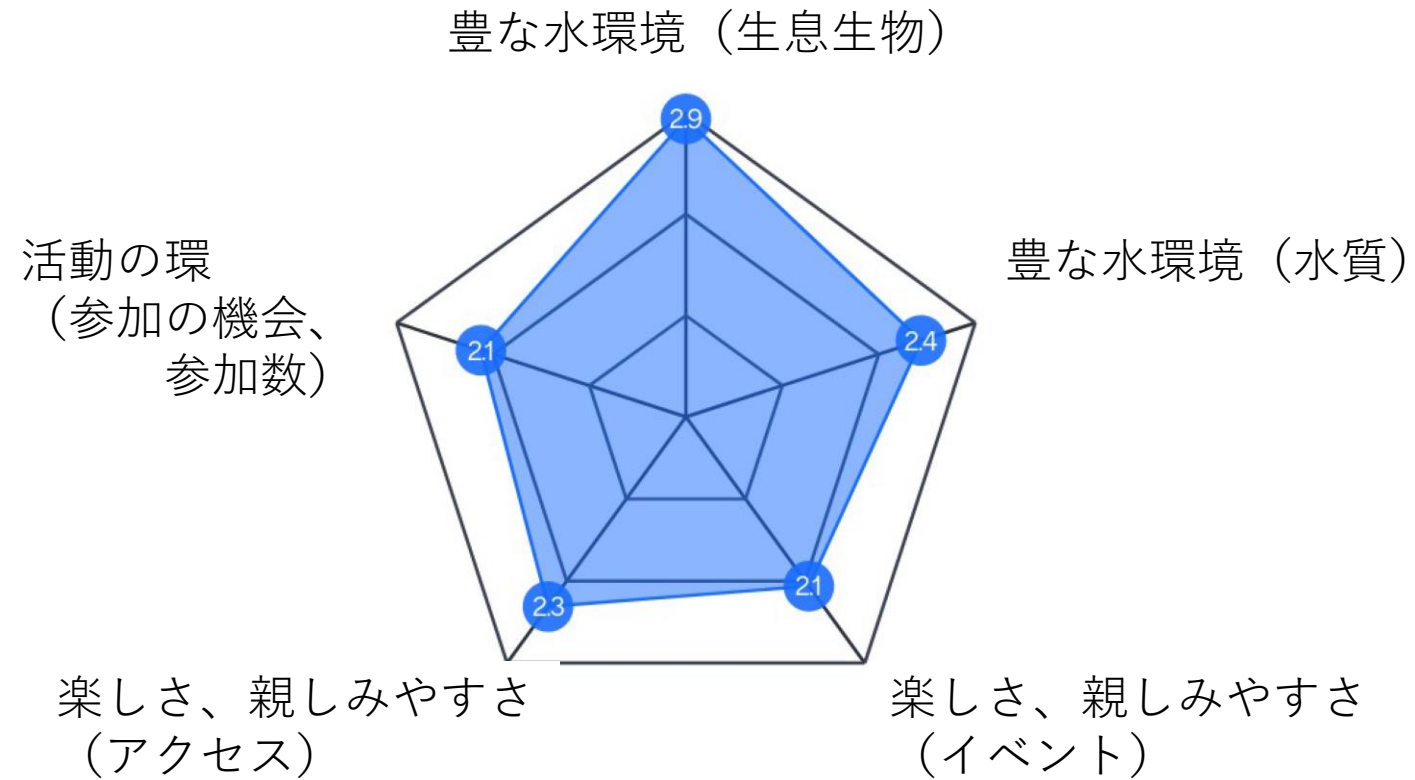
意見交換

- 今回ご参加のみなさまのご所属



意見交換

- 重要なモニタリング項目



意見交換

- 増やすとしたら、どんなモニタリング項目？

より高頻度での各種モニタリング

東京湾に関わる施設の利用者

釣り船（遊漁船）の漁獲量

海ゴミの種類

物理環境（流況）

連続観測

海の色

釣り

動植物プランクトン

東京湾の魚種

一般向けに、海に興味を持つ理由

ある種の生物モニタリング

出水時の栄養塩等の負荷量

娯楽世

市民によるプランクトン・水質に注目した調査

より沿岸近くや河口のごく近くでの水質調査

東京湾に触れられる施設の来客層

漁獲高（生産力の指標）

漁獲努力と漁獲位置

意見交換

- ・モニタリングの活用について

一般の人、特に拡散能力の高い学生をターゲットにしたTikTokなどのSNSを利用したコンテンツ（都市伝説的な）を提供する

釣り雑誌や、アウトドア雑誌、学習雑誌などに成果を発信する（そうした事例が無いわけではないが、少ない気がします）

近年赤潮に関する報道が増えていること、また富栄養化との関係などについても学校である程度教えられていることから、一般市民にそのまま現状を共有しても一定数の人には理解して環境政策・ボランティアなどに関心を持ってもらえる気がしている。その際、現状でもデータベースはよく整理されているように思うので、まずはデータベースにどこからアクセスできるのかを横断的にまとめたフォームやパンフがあってもいい気がする。

ご参加の皆さんで記念写真

